

第9回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和3年12月6日(月) PM7:00～PM9:00

場 所 平井公民館

出席者 委員24名 事務局3名

次第

1 会長あいさつ

2 議事

- (1) 令和4年度地域活動交付金募集要項及び審査基準について
 - (2) 来年度協議会推進体制及び委員構成見直しについて
 - (3) 令和4年度東郷地域自治区予算事業計画について
-

1 会長あいさつ

・Zoomでなく対面での会議となる。お互いに顔を知り合って繋がりを作っていききたい。

2 議事

協議会の会議録署名

- ・定数30人のところ24人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を2名指名し署名をお願いした。

(1) 令和4年度地域活動交付金募集要項及び審査基準について

令和4年度地域活動交付金募集要項及び審査基準について、前回の地域協議会で決定したとおり要項及び基準の改正を実施したことを報告した。

(2) 来年度協議会推進体制及び委員構成見直しについて

今年度の協議会推進体制及び協議会運営要綱と同様の体制で来年度も運用していくことになった。

(3) 令和4年度東郷地域自治区予算事業計画について

今年度の事業の進捗状況や来年度を迎えるまでに決めておかないといけないことや解決しないといけない課題について、地域計画の柱ごとに分かれて話し合いを行った。

以下、各柱ごと発表・意見交換を行った。

1. 暮らそう

・地域交通検討事業

足を考える会について、令和4年度の予算が令和3年度の予算よりも15万円近く増えた中で、先進地への視察回数を増やし、茶話会の回数も増やしていただいた。また、アンケートだが、小中高含めて、親と子供と高齢者との間の中間層はどうするのかっていう中で、東郷のホームページの中からそういう意見も拾うことを考えていくということだった。とにかく今ここで話し合ったこ

とは、Sバスを単なる足として考えるのではなくて、いろんな多目的も考えた中で、いかに東郷地域に合ったシステムを考えるのが一番の問題で大変難しい。例えば高校生が、帰りの時間が新城駅で止まっちゃって大海駅まで行く子供たちの中で、1時間以上待たないといけないという時にも、そういう足も考えてほしい。また年寄りが好きな時間に好きなところへ行けるようにも考えてもらいたい。その中で山吉田のデマンドバスである状況だとか、新城のお助けチケットだとか、いろんなことを考えている中で、とにかく足を考えるというと単純な話だが、一番経済的にも効率的にもベストなものを、東郷地域にっていうのは大変難しい話であるということで、まずはとにかくいろんな状況データを集めた中で、模索していくしかないねという話し合いだった。

(主な意見)

- 委員 アンケートは誰を対象としているのか。親子と書いてあるが、子供は年齢は。
- 市村副会長 小中高の子供さんがいらっしゃるご家庭に配布し、兄弟がいる場合は1回でいいとしている。本当はアンケートを東郷全体でやりたいんだけど、今回は年齢層を分けている。もし可能ならば、わくわくするまち東郷のホームページにアンケートを書くようなスペースを設けて欲しい。ホームページの方から交通に関するご意見をくださるような形もとれるんじゃないかなと思っている。

2. 守ろう

・地域防災連携促進事業

先日開催した東郷防災ミーティングの方でも課題となった避難所の運営について、実際に避難所となる体育館に泊まって体験してみるというようなことも次年度は開催してもらいたい。また、前の会議で出たと思うが、東郷地域にあるグリーンベルトの進捗状況はどうなっているのか。あと、各地区に合計で約800箇所ほど整備されている地域安全灯が整備されてから10年くらい経つところもある。そろそろ壊れてくるので、その場合の対応なども大きな課題になってくる。あと、防犯カメラについては設置に関し色々な課題もあると思うが、交通量が多くなってきたので防犯カメラも設置できたらより安心安全なまちになるのではないかな。

3. 育てよう

・子育て世代交流促進事業

ほっといきいき講座を、令和4年2月に行うということで、東郷子育て支援グループさんに委託して企画していただいたが、最終的な目標としては、子育てに困っているお父さんやお母さん、寂しい子供たちが集まれるような拠点が欲しいという話になった。できれば、みんなが集まっているような話ができるような場所が東郷地域にあるといい。例えば、戸田さんのDIYで空き家を東郷地域の拠点としていろんな活動ができるようになると、いろんな支援がしやすいという話になった。やはり、この育てようのチームと東郷子育て支援グループさん方で一度いろいろ話をして、この事業の当面の目標から将来的な目標について、擦り合わせをしたいと思う。まだ日程は決まってないが。

・多世代交流事業

事業計画案については、毎年同じ講座を行うという形をとってもいい。今年はこの講座、来年はこの講座と変えずに、Youtuber 養成講座であれば、毎年それをやるという考え方もありなのかな

ということになった。最終的に一番、問題になったのは、どこで誰がやるか、ということ。共育コーディネーターという予算を取ったが、どなたにお願いするのかについて、まだこれから詰めていかなければいけないという話で終わった。

(主な意見)

市村副会長 対象は親子と書いてあるが、子供の年齢はどのぐらいを想定しているのか。また、親と書いてあるが、おじいちゃんおばあちゃんじゃ駄目なのか。それと、SUP体験とはどういうことなんか知りたい。

事務局 東郷学び学校は、教育委員会でやっている共育講座というものの東郷バージョンに近いものとなる。共育ということなので、基本は子どもを対象としている。子どもの年齢は多分指定はないと思うが、だいたい小中学生ぐらいかなと思う。親子対象と記載はあるが、おじいちゃんおばあちゃんでも、お孫さんを連れて来ていただいても構わない。もう一つ、SUP体験というのは、今、最近流行りつつあるが、河原でサーフボードみたいなものに乗ってバランスをとりながら進むというような体験のこと。今、観光課でやっていて、講師の人が沖縄から来て教えることを想定している。ただ、講座に関しては、今の段階の案であり、共育コーディネーターさんと一緒に考えていく中で、講座の方が変更になる可能性もあるということで、よろしく願いたい。

会長 来年度までにもうちょっと細かく詰めないといけない。

4. 学ぼう

・設楽原の戦い歴史検定作成事業

検定試験を作成する作業に対し、実行委員会を立ち上げたい。令和4年4月から動くためには実行委員の募集を今年度中に始めたいという話になっている。対象としては中高生ぐらいから選びたいと思っているが、もう少し詳細を詰めていきたいと思っている。また、設楽原ボランティアガイドさんにもお手伝いをいただきたいと思っている、実行委員ではなく内容についての精査をしてもらうような形で参加をしていただくと良いのではないか。いずれにしても今後、歴史検定のための教科書を作り、検定試験につなげていくため、これから委員の皆さんのご協力をいただくこともあるかと思うのでよろしく願いたい。あとは、その次の展開の話の中で、観光面についても話があがった。

5. 楽しもう

・スポーツバイク普及推進事業

ケッターパークのスタッフ人員について主に話し合った。まず今担っていただいている若者の方々の疲弊があるのではないかということで、有償ボランティアは必須ではないか。また、今後のスタッフ勧誘方針にもあるように、消防団員の方の他に、必ずしも大人だけではなく、学生の方の有償ボランティアと大人が共同して取り組めることも一つの手ではないか。形としてはケッターパークに来てくれたお子さん達を教えたりとか見守りという業務を学生さんに担っていただき、大人はその全体管理とか安全面を見ていく。また、パークの有料化に伴っては、お金の管理も大人がやるという形を取るのいいのではないか。その学生の子たちをどうやって集めていくのかということだが、これまでの計画の中にもあったが、そのマウンテンバイクの講座やスケボー教室を開いて、その中で楽しんでもらう、そして、楽しんだその体験の中から、自分もボランティアとして加わりたいという人を

見い出していけるんじゃないか。そして、ボランティアを1回してもらった方には次のパーク利用を無料で受けられるというようなアイデアも出た。学生の方々に有償ボランティアで来てもらったりするとSNSとかで宣伝なんかも期待できる。また、パーク有料化ということで、今まで無償化だったのを突然有料化ということで混乱は起きるのではないかということで、今後導入が予定されているパンプトラックが導入される際に有料化を進めたらどうか。これまでリピーターとして来てくれている人には特にその告知が必要であろう。有料化した場合の料金設定なんかも他の事例やこれまで利用してくれたリピーターの方にアンケートをとって考えていけばいいのではないか。

【次回会議】

日時:令和4年1月17日(月) 19時から

形式:対面会議 (※コロナの状況によってはオンライン会議に切り替える)

場所:市役所4階会議室

【21:00 終了】